

秋川 養沢川奥のボルダー

2018.1.6 rctK

以前、大岳山を養沢側から登った際、林道の終点(車止めがある地点)にボルダーがあるのを発見する。日陰で乾きが悪いと見え苔だらけであったが、薄被りのフェイスは意外ときれいで面白そうに見えた。しかし、岩の基部にフットホールドとなってしまう帯状の岩があり、下地はあまり良いとは言えなかった。当時はシート1枚のみのボルダートライだったこともあり、写真だけ撮ってそのまま行く機会もなく今回まで殆ど忘れていたが、クライミングエリア情報の再アップで思い出し、久しぶりに確認のため訪れてみた。行ってみると、岩は相変わらず昔のままの状態で苔がびっしりと付いてはいたが、ちょっと整備をすれば何本か面白そうな課題ができそうだったので、簡単に掃除と周りの整備をし、駐車スペース周囲のゴミを少し拾ってその日は帰宅した。

その後、台風の影響や帰省で行く機会がなく、暫く時間が過ぎたが、昨年末になり、ギックリ腰のりハビリがてらにちょっと訪れてトライしてみた。楽しい課題は何本かあるが、特に難しいという程の課題はない。

岩質はチャートでまずまずしっかりしており、一番高さのある左側で5m程。夏場は乾きが悪く結露が酷そうである。

アクセスは、五日市から十里木を経て養沢川に沿って林道最奥まで入ると、林道のどん詰まりに何台か置けるスペースがある。休日には登山者が駐車するので、できるだけ詰めて駐車すると良い。転回場所は必ず確保。駐車スペースから対岸上流部にボルダーが見えるので沢を渡り踏み跡を行けばボルダーは直ぐである。

なおトライを終えた後、持ち帰れないものを除いて、駐車スペース周辺のゴミを多量に回収した。いつもながら空き缶、ペットボトル、空瓶などが多かったが、林道上でゴミを燃やし、その燃え残りをあちこちに散らかして帰って行く者が多らしく、最初にきれいにした後にまたゴミを燃やして散らかしている状況が次に行った時にも見られた。また、紙おむつや雑布などもわざと藪の中に捨ててあり、今後あまり不法投棄が酷いと林道自体が通行禁止にならないか心配である。

《課題紹介》

左:左側 右:右側

ボルダーの左側は前傾フェイスとハングで、左端のハング上はスラブとなっている。赤ライン(課題名:ポスト・トゥルース)、ピンクライン(課題名:フェイク・ペーパー)、青ライン(課題名:小池劇場)がそこそこ楽しめる。

赤ラインは、スタートで右にある大きな基部の岩は使用しない。

ピンクラインは、身長があればハング上の良いホールドに簡単に届いてしまうと思われる。ハング上で黄緑ラインに入らず、右上に抜ける。

黄緑ライン(課題名:フェイクTV)は、基部の岩は使用せず、ホールドに両手でぶら下がった状態でスタートする。

青ラインは、ハング越えが核心でホールドが細かく痛い。

右側は、右に行くほど高さが低くなるが、青のトラヴァースライン(課題名:カエルの楽園)が面白く、最後のガバまでバンド上にあるホールドを使い上に出ない。また、スタートから最後まで、基部の岩は使用しない。

aラインの下辺りは下地が悪く岩が飛び出ていたりするので、パッドを必ず使用した方が良い。

